

アンケートについて

3月1日に各教会にアンケートをお願いしましたところ、教会単位や個人としての回答など、4月11日の伝道部会までに25枚の回答をいただきました。それらには、回答の主体が教会単位のものや信徒個人のものとの混じり合い、平等には扱えません。グラフにするとそれが独り歩きしてしまい、逆に公正を欠くことになりそうですので、回答の数字と文章を、赤いゴシック体で表記させていただきます。

①井戸端会議を継続することに賛成でしょうか？ 該当するものに○をしてください。

*続けてほしい **9** *止めていいのではないかと **3** *特に意見はない **10**

(記述意見)

- ・この会議での話題は「井戸端会議」としているのですが、オフレコではないでしょうか。「表」に出すのなら新しい試みで！
- ・私はいきたいと思う程度ではなかったが、よかったという人がいるので、スタッフがしようと思うならばいいと思う。

②行う場合、日程はいつがいいですか？ 次からいくらでも選んで○で囲んでください。

*4月29日(土) 昭和の日 **1** *5月3日(水) 憲法記念日 **0** *5月4日(木) みどりの日 **2**
*5月5日(金) こどもの日 **1** *7月17日(月) 海の日 **7** *秋以降 **10**

(記述意見)

- ・ゴールデンウィーク中のアセスは席の確保移動がむずかしい期間であるのでさけて欲しい。
- ・伝道部の都合の良い時に
- ・ゴールデン、シルバーウィークを除いて！

③場所はどこがいいですか？ 今までは、福岡市、大分市、佐賀市、鹿児島市で開催しました。教会名あるいは都市名を書いてください。

熊本 **4** 教区センター **1** 福岡市 **2** 長崎 **2** 延岡 **1** 久留米 **1** 北九州市 **1**

(ほかに) 今まで開いていない所 **3** 順番にまわる **2** あっちこっちの開催で良いのでは **2**
大都市でなく小さな町で **1** 八幡でも良いですが **1**

④何かテーマを決めて集まるのがいいでしょうか？ 希望するものに○を囲んでください。

- ・新しい人を教会に迎えるための伝道プログラム **10** ・信徒として成長するための教育プログラム **5**
- ・教区の財政について **1** ・教区建築問題 **2** ・テーマは決めない方がいい **9**

(記述意見)

- ・(教区全体のIT化) 司祭の事務省力化も含めて対策する。
- ・テーマがある時も良いのでは
- ・何でも言える会がいい

⑤今までは午後1時から3時30分までのプログラムでしたが、どのような時間割がいいですか？

- ・午前中から昼食をばさんで午後まで4~5時間ゆっくり取りたい **6**
- ・今までのように午後1時から3時半くらい。 **12**

(記述意見)

AM11:00~昼食~PM3:00迄

⑥ほかに何か意見があれば、書いてください。

- ・過去4回で意見は出尽くしているのでは、次回は伝道部独自の企画を早々に考案して実行に移す時と考

えます。

- ・この教会からの出席は無かったと思いますが、出席の状態はどうなのでしょう。本当は若い人も参加して、本当に井戸端会議ができると良いのでしょうか。
- ・3月5日礼拝の後、この件について皆で話し合い、これが井戸端会議だね。と言う事になりました。1年~2年の間に一か所に集まり、取り組んでいくには時間が開きすぎるのではないかと、まず教会ごとに井戸端会議をして、自由に意見を出し、①メールで全部の教会と情報交換をする。②ノートに書いて教会に回して意見を書く。などの意見が出ました。
- ・直方・戸畑とも教会としての意見を出せずすいません。
- ・なるべく大都市じゃない小さな町でやってほしい。
- ・大口聖公会は高齢化により、参加することがなかなかできません。
- ・続けてほしいという意見が多ければ継続も良いし、伝道部で判断されれば良い。
- ・巖原の教会で皆さんに相談しましたが特に意見がなかったので個人で回答させていただきました。
- ・1、「中止してよい」という意見の理由
 - ① 司祭様方が、著しく少なく 時間的・体力的・仕事量的に負担が大きい
⇒ 司祭様が増え、ゆとりが出来たら 再度はじめても良い
 - ② 各教会の信徒も高齢化しており、参加するのが難しくなる
- 2、形式を変えて行なっても良い
 - ① 過去の「井戸端会議」の趣旨は、教会間（信徒）のコミュニケーションと自由な発言がテーマであった。おしゃべり形式で「諸意見や質問」が出ても「課題」として取り上げることもなく、アセスメントも行なわれなかった。
 - ② 昨年「井戸端会議」で出された内容の主なもの
『司祭様不足に関すること』『信徒減少のこと 色々工夫して宣教活動を行なっているが…』
『高齢化の問題』他であった。
 - ③ 今年 もし行なわれるのであれば、昨年出た意見や質問の中から、テーマを選んで、研修会・ワークショップなどを行なってはどうか？
- ・年に1回であれば、その機会を逃すと次の年と、間隔が長すぎる。もう少し年に2~3回とはいかないだろうか！
- ・井戸端会議なので、三々五々という感じで、長ければ良いとは思わない。会議の名前を換えれば目的も異なり、設定時間も変えると思う。
- ・出来れば温泉などで1泊し、多くの人に参加したくなる目玉（魅力）を1つ入れる。例えば熊本、阿蘇とか。長時間かけて話す中に、熱いものが出てくると思う。プログラムは簡単なものがよい。もりだくさんにしない。
- ・伝道部主催なら伝道について考えれば良いと思います。
- ・いつもいろいろな行事、アイデアをありがとうございます。私自身人間なので、賛同（参加）できるわけではありませんが、スタッフのかたが考えられたことに祝福がありますようにとお祈りしています。

ある前伝道部員からの意見

- *まず、井戸端会議を開くかどうかについては、どちらかという開く必要はないと思います。前、伝道部に関わって、前々伝道部から引き継いで、井戸端会議を3回ほど場所をかえて開きました。そして、出てきた意見など、集約するうちに、新しい人を招く良い方法として、アルファコースが良かった、とのことで、最後に実践報告を福岡や鹿児島の方たちと福岡で教区伝道部として行いました。が、それをひとつの締めくくりとして終わっていいのでは。
- いろいろな伝道の在り方があっていいと思いますが、部長さんが代わるたびにその3年間が動きます。全体で次の3年間を考えるべきです。今回引き継ぎでアンケートを取ってくださってよかったです。新しい部員をいれることも大事です。

教区はそれぞれの教会を元気づけることが役目じゃないでしょうか？

「東西南北」では、各教会がいろいろなニュースを知らせてくださっています。

高齢化や仕事、病気などで数人の人しか、自教会から出ていくことは近頃無理になっています。それな

ら、それぞれの教会が自発的に出来ることを、自分の周りの人や、なかなか来られない人に向けて、発信した方が良いような気がします。

前に用意された「伝道ポスト」はもう用いられないのでしょうか？

教会でその係りを決めて、中に入れるものを更新している時には興味を持って行かれる人がいました。そのあとは各教会がどうつなげていくか、長い目でみて行かないといけないのでは、と思います。伝道部3年で結果がでるものじゃないですね。今回アンケートをいただきましたが、その意味をしっかり考えなくてははいけませんね。反省です。

今後について

これらの意見を聞いて、4月11日（火）の伝道部会は、今後について話し合いました。6人のメンバーの内、井戸端会議に直接1回でも参加した、という部員はひとりだけでした。そこで、これまでの井戸端会議おなじものを早急に実施することは経験不足のためにできない。また、次の井戸端会議をするにしても、夏か秋以降を望む声が大きかった（アンケートの②から）。そして、もしテーマを決めて行うとしたら、新しい人を教会に迎えるための伝道プログラムが伝道部主催の井戸端会議にはふさわしいだろう（アンケート④から）。ということになりました。

そこで、まずは井戸端会議かそれに代わるものを準備する作業として、私たちは次回の伝道部会を鹿児島復活教会で開くことにしました。鹿児島島の教会の人々にも伝道部会の話をいただき、また井戸端会議や5年後の夢の活動に積極的に取り組んだお話などを聞いて、次に伝道部会がどんな内容のものを企画するか具体的にアイデアを作るためです。

第3回伝道部会 2017年6月12日（月・使徒聖バルナバ日）午前11時から午後3時まで
（第1部）午前11時から12時 伝道部の報告、特に聖霊降臨日献金の使途について
（第2部）昼食から午後3時まで 鹿児島復活教会の5年後の夢や井戸端会議への取り組みと伝道活動について、伝道部との意見交換や交流。

伝道部が次回鹿児島復活教会と協働して伝道部会を開く理由をいくつか箇条書きで出します。

- ・ 5年後の夢について、大変積極的に取り組んで来られたが、先日の代表者会では十分にその発表を聞けなかった。
- ・ 前伝道部長の中島司祭と共にこれまで積極的に井戸端会議に参加してきている。
- ・ 今年の聖霊降臨日献金を、厳原、延岡、八幡の3つの教会の伝道活動のためにささげたいと思っているが、同時にどのような伝道方法が考えられるか、伝道部も方法を研究中である。
- ・ 今年の4月から現在の伝道部長が鹿児島復活教会の管理牧師になった。また、昨年からの部長は延岡聖ステパノ教会の協働司祭をしている。伝道部員は鹿児島、大口、宮崎、延岡の教会員で構成されているので、伝道部と各教会との現場での協働活動が具体的にできて、定住者のいない厳原や八幡の教会の活動にも参考になることを期待している。

（お願い）

伝道部会の今回の試みは、誰もが参加できる井戸端会議とは違って、伝道部員と鹿児島復活教会の会合ですが、今後各教会の伝道活動を提案していくうえで、この話し合いを有意義なものにするため、教区の皆さんの、度の教会でも実施可能と思われる伝道活動を文書でご紹介いただけますでしょうか。

アイデアのある方は次のアドレス、ファックス、住所に送ってください。

f-frank@kind.ocn.ne.jp FAX 0985-24-1423 〒880-0032 宮崎市霧島4-155 宮崎聖三一教会